

会報

2013. 5.15

第60号

戦没船を記録する会

〒343-0025 埼玉県越谷市大沢 4-15-1-4-207
Tel/FAX:048-965-6820 携帯:090-6146-5557
URL=http://www.ric.hi-ho.ne.jp/senbotusen/
E-mail: senbotu@ric.hi-ho.ne.jp
郵便振替 00160-6-719515

目次

定期総会に向けて 第20年度活動方針(案).....	1
第19年度活動報告.....	2
第19年度収支報告.....	3
海の平和への熱い思い抱いて.....	4
川島 裕名誉会長ご逝去	
海の平和と安全に尽力.....	5
川島 裕さんを敬慕	
「むつ」の教訓を無視、過去に学ばぬ面々.....	6

定期総会に向けて

第20年度活動方針(案)

本会は結成19周年を迎えたが、会員の高齢化、活動家の他界、財政の悪化等組織の厳しさが進行しており、以前にも増して会の在り様についての多様な意見が出ている。

とはいえ、今次総会での意見集約は乱暴に過ぎるし無理な状況である。残された課題もあり、財政的にも今年度は何とかかなりそうなので、当面の課題・継続的課題に取り組みつつ、組織のあり方についても1年間かけて種々の検討・論議を深めて意見の集約を図ることとする。

1、DVD『海なお深く』の有効活用促進

先の太平洋戦争における日本船と乗組み船員の喪失は、多大かつ悲惨を極めるものであり、再びこの惨事を繰返してはならない。

われわれは20年間に亘りその実態の記録や資料を収集・整備し、その集大成としてDVD『海なお深く』一戦没船と船員の記録—を作成した。

このDVDの視聴促進は無念の死を遂げた御霊への報恩であり、世界平和への貢献の一端でもある。連携を広めつつ具体的な活動を推進する。

2、収集・整備した記録等の保存と社会化

「戦没船・戦没船員に関する諸資料をDVDに収納する」との決定は実現に至っていないが、その後も収集や再整備は継続されている。それらも含めて、保存と社会化の来春の実現を目指して活動を強化する。

3、組織問題の検討・論議の促進

会の有り様についてあらゆる観点から検討・論議を深め、会の実状や論議の中間的報告も行いつつ、明年の定期総会を期途として意見集約に努力する。

4、パネル展示会開催

各地で行なわれてきたパネル展示会は、船員の立場から平和追求の希少な場であると共に記録収集と整備促進の場でもある。創意工夫しながら可能な限り継続する。

5、ホームページの整備と活用促進

一般的にHP機能の改善も進んでおり、整備・活用の仕方によってはより有効化が図れる。担当者の刷新強化も含めて整備と活用の有効化を図る。

6、問い合わせへの対応

遺族・関係者やメディア等からの問い合わせが少ないながらも続いている。これらへの対応も本会の役割の一つとして継続する。

7、新会員の拡大等会の態勢整備

会員の高齢化等による会の弱体化が進んでいるが、相対的若年層の意識的参加による組織の活性化に努力する。

8、財政の健全化

財政は厳しい状態にあるが、増収に努めると共に、支出の大幅な縮減を具体策を含めて実施する。

9、その他必要な活動が生じた場合は、理事会の議を得つつ対処する。

第20回定期総会開催告示

戦没船を記録する会々長 新関 昌利
第20回定期総会を下記により開催致します。

記

日時	2013年5月23日(木)	14時～
場所	東京 港区立勤労福祉会館	和室
議題	1、第19年度活動報告・決算報告	
	2、第20年度活動方針	
	3、会則改正	
	4、役員改選	
	5、その他	

第19年度活動報告(案)

<組織の現状>

- 会の存続問題=近年毎年「会解散」の意見が出ているが、昨年は「DVDの有効活用」「資料の収集・整備」等の課題もあるとして継続活動を確認した。
- 役員の方の非改選期であったが、川島会長の体調不良、篠原事務局長の強い退任意向もあり、新関会長・栗原事務局長への交代を行った。
- 会長・事務局長の交代を機に、会費・寄附金等の納入及び連絡や体調の状況を踏まえて、会員・賛助会員の整備を行なったが、会報が返送され連絡の取れない人が増えており、会報送付は58号(6/10発行)が150部、59号(8/25発行)が110部であった。
- 寄附金等の納金状況は、2012年度は会報への振替用紙の同封を欠いたこともあり、90,500円/15人に留まった。

<理事会>

- 4/5=DVD製作と活用が主な討議。
- 5/24=18年度活動・会計報告、19年度活動方針、組織問題等を討議。
- 9/13=DVD有効活用、記録の整備・保存を討議。理事1名から辞任申出があったが、次回総会まで保留とした。監事の辞任・退会の申し出があり承認した。
- 11/29=DVD有効活用についての海員組合の見解について討議。

<DVDの活用>

- 本会としては、先ず会員・賛助会員・協力者・友誼団体等に手渡すまたは郵送により、年度末までに180個を配布。「DVD完成報告集会」開催。個人またはグループ等で状況に応じて視聴が促進されているようである。
- 海員組合とは実務的協議を行ない、一部不一致点を残しながらも活動を推進している。

<戦没船・戦没船員の記録の保存と社会化>

本会が収集・整備した記録をDVDの「資料編」として入れる予定であったが、資金不足と収納分量難により実現できなかった。その後も本会及び個人有志等により収集・整備が継続されており、何らかの形で世に出すことが模索されている。

<パネル展示会>

- 2012年平和のための戦争展 in よこはま
5月31日～6月2日、かながわ県民センターで開

催された。戦没小型船と原子力「むつ」関係のパネル・資料を展示、DVDの視聴会も含めて好評であった。

- 2012年平和のための埼玉の戦争展

7月26～30日、うらわ市ユルソで開催され、原子力「むつ」関係のパネルと戦没船全般のパネルを展示、DVDの放映も行なった。イベントルームで、平山氏による原子力「むつ」関係の講演・対話を行なった。全体の来場者9,000人。

- 2012年平和のための焼津戦争展

8月3日～5日、焼津市ふれあいギャラリーで開催。焼津漁業と漁船徴用の実相、第5福竜丸事件と全国での被災船、東日本大震災と福島原発事故・チェルノブイリ原発の現状等を展示。

来場者数 350人。

- 海員組合定期大会会場(マリコット)において

2012年10月9～12日まで開催。戦没大型船関係のパネル展示を主体とし、DVDの視聴も行なった。

大会中の休憩時間が多かったためか参観・視聴者が例年になく多かった。

<会報の発行>

第58号(2012年6月10日発行)、第59号(2012年8月25日発行)の2回に留まった。

第19年度会計報告

寄付金=2009年4月より「会費」を廃止、任意のカンパ(年間6,000円推奨)としたが、その後も「会費」ということで納金される人が続いてきた。

一方寄付名目では会員外からのものが増えて

いる。
雑収入=「DVD完成報告集会」へのカンパ45,000円と総会祝い金。

特別繰入金=過去の未計上金整備に伴う帳簿上の繰入金。

通信費=会報及び会議・集会案内状の郵送費が主。

印刷費=会報のコピー代が主。

事業費=よこはま・埼玉の展示会参加費が主。

旅費宿泊費=会長就任挨拶とDVD活用会議の旅費(高額部分)。

交通費=DVD製作・活用のための会議参加交通費、事務局の諸活動交通費が主。

消耗品・雑費=DVD完成報告集会費144,130円、名誉会長葬儀関係25,313円、友誼団体総会等への祝金20,000円、文具費18,082円、会計監査費15,280円等が主。

戦没船を記録する会 収支報告書
(2012年4月1日～2013年3月31日)

基本会計

科目	収入	支出	合計
前月より繰越	152,000		152,000
入会金			
その他			
合計	152,000		152,000

一般会計

科目	収入	支出	合計
前月より繰越	504,168		504,168
寄付金	90,500		90,500
事業収入			
特別繰入金	6,899		6,899
雑収入	55,000		55,000
収入合計	656,567		656,567
通信費		73,742	73,742
会議費		10,480	10,480
印刷費		23,192	23,192
機材整備費			
事業費		48,900	48,900
資料作成費			
特別繰出金		14,700	14,700
旅費宿泊費		92,000	92,000
交通費		135,680	135,680
消耗品・雑費		233,045	233,045
支出合計		631,739	631,739
次月繰越金			24,828


次期繰越金			176,828
-------	--	--	---------

繰越金内訳

基本会計	金額	一般会計	金額
現金	152,000	現金	4,646
振替貯金		振替貯金	505
銀行預金(労金A)		銀行預金(労金A)	
		銀行預金(労金B)	
		銀行預金(みずほ)	
		郵便貯金	19,677
合計	152,000	合計	24,828
次期繰越金	176,828		

会計監査

2013年 5月 9日

税理士 小島 久子 

<全体として>

- 2012年度は、戦没船DVDの製作に伴う旅費・交通費・雑費、役員交替に伴う旅費等の大幅な支出増があったが、一般会計の繰越金は24,828円となり、基本会計と統合しなければ財政運用は不可能な状態となった。全体としても繰越金も176,828円であり、このままでは2013年度は何とか乗り切れるとしても、2014年度の活動が危惧される。
- 増収を図り支出を抑える抜本策を講じないと、財政的に立ち行かなくなる虞がある。

海員組合大会場で

パネル展示とDVD放映

毎年、海員組合定期大会々場で本会のパネル展示会を行なっているが、2012年10月9～12日、大会会場のホテル・マリナーズコート東京のロビーに於いて、パネル展示とDVD『海なお深く』の放映を行う機会を得た。

今回は、展示パネルも例年の倍増としたが、大会の休憩が多かったためか参観者も多く、じっくり見てゆく人もおった。

また、海員組合自体も大会会場で放映し、大会出席代議員にはDVDを配布したようであるが、広い会場で斜めから見た人は良く見えなかったとのことで、本会の放映を見ていった人もいた。

海運・海員の歴史の一断面への認識が深まり、DVD有効活用に役立てたとしたら有益であったとしたい。

東京海洋大学でパネル展示会

東京商船大学出身者の紹介で、東京海洋大学学生祭の一部として本会の「戦没船・戦没船員関係のパネル展示会とDVD放映会」を開催することとなった。ご参観を！

日時 2012年6月1日・2日 10～17時
場所 越中島キャンパス

(東京都江東区越中島2-1-6、
JR京葉線 越中島駅すぐそば)

問合せ 本会 tel:090-6146-5557

(6頁から続く)

原発事故に繋がったのではないかな。過去や他国の教訓を学び生かさないこの国のあり方に危機感を覚える。

- 先祖代々からの生活基盤の場所から追い出され、今後も還れないかもしれない。物心ともに抛り所も何もかも失った。今後どうしてゆけばいいのかわからない。原発など造らせねば良かった。
- 子供が何時放射能病で倒れるか、将来が心配でならない。不安な予測は耳にしたくないが、何んも分からんのはなお不安。国や学者さんたちは一定の科学的な見通しを出して欲しい。
- ガス爆発どころか原子炉爆発の危険さであったようだ、下手をすれば関東一円放射能禍に晒され、日本沈没もありえた。原発再開など考えられないことだ。(文責 栗原 三郎)

海の平和への熱い思い抱いて

川島裕名誉会長ご逝去

戦没船を記録する会名誉会長の川島裕さんが、2012年11月5日逝去され、11月8日、弓町本郷教会(文京区本郷2丁目)で前夜式が、翌9日同所で告別式が行われ、両日とも大勢の参加者が川島さんのお別れの式に臨みました。戦没船を記録する会からも小林、中島、吉田の3副会長をはじめ述べ11人が参加されました。川島さんと高等商船同期で本会会員の高橋潤次さんも、静岡県からお別れに駆けつけられ、共にご冥福をお祈りいたしました。

川島さんは昨年4月に完成した戦没船のビデオ『海なお深く』—戦没した船と船員の記録—作製に当って、2月17日に集録した「インタビュー」では、元気にその思いを語ってくれましたが、その後脳梗塞で2週間ほど入院され、少し「ろれつ」が回らない程度とのお話でしたが、リハビリのデータービスに通うなどの事情で、4月のビデオ試写会にも出席されませんでした。そのため6月15日開催の戦没船を記録する会第19回定期総会で「名誉会長」に推挙されました。

昨年1月頃、自宅の建て替えを思い立ち、建物解体のため神奈川県大和市の次女宅に同居し、新築工事は土台が出来た段階にあった様ですが、11月5日の昼食後、何かがのどに詰まっている様だと訴え救急車を呼んだが、救急車の到着前に心肺停止の状態となり、救急車と病院の手当で一時息を吹き返したが、15時55分死亡が確認されました。死因は環状動脈硬化症による虚血性心不全と診断されましたが、苦しむことはなかったようでした。

川島さんは牧師の子で家族ぐるみトラック島に赴任中、進学のため東京の親戚に預けられ、青山学院に通う傍ら弓町本郷教会にも通い、それ以来この教会に所属して、最近では責任役員として終生教会のために尽力されていたようです。

海軍・二度の命拾い

川島さん昭和18年東京高等商船学校を卒業、大阪商船に入社と同時に海軍に応召、空母「瑞鶴」に乗艦。約1年勤務後転船命令を受けて退艦、瑞鶴はその直後のレイテ海戦で撃沈されています。その次は千トン足らずの第108輸送艦に中尉として乗艦しましたが、高雄からマニラへの或る航海で、機関故障

で引き返したと時に、一緒に出港した2隻の輸送艦は米軍の攻撃をうけて全滅しました。

あの時、転船命令が来なかったら、また、機関故障で引き返さなかったら、どちらも命がなかったのに、二度命拾いしたと語っておられました。

終戦は108輸送艦の基地の香港で迎えましたが、英軍の空母が入港して来て捕虜になり、それまで英軍捕虜が入っていた収容所に、今度は日本人が入られました。そこでは青山学院で学んだ英語が役に立ち、監督官の通訳をやることになって、捕虜生活も4ヵ月で終わり、終戦の年の大晦日には東京に帰って来ることが出来ました。

華々しい活躍

川島さんは復員後、社命で海務学院に学んだ後、陸上勤務や乗船勤務など様々な場面で活躍されますが、最後の南米移民船ぶらじの丸の船長や、アジア青年の船、日本産業巡航見本市船の船長や、沖縄海洋博アクアポリス市長に就任。また、日本船長協会の会長、国際船長協会連盟会長も務められました。

更に、運輸省港湾審議会委員、同海上保安船員教育審議会委員を務められるなど華々しいご活躍をつづけられ、藍綬褒章を受賞されました。

海に平和を

そして1995年から戦没船を記録する会の会長に就任されました。川島さんは「この戦争では瑞鶴は全滅し、高等商船同期40人のうち生存者は17人、幼稚園同級生は海軍兵学校から特攻第一号に志願し敵空母に体当たりなど、周りの人が皆死んで行った。

戦争は人間を狂気にする、絶対するものではない」と何時も説いておられました。戦没船を記録する会の会長を引き受けられたのも、そういう深い思いがあったからだと思います。

海員組合の協力で完成した「戦没した船と海員の資料館」の献辞や、「戦没船を記録する会十年史」の巻頭言にもその思いが色濃く表わされています。また、本会の行事やパネル展にも友誼団体の集会にも積極的に参加され、海を戦場にしていけないと、平和への熱い思いを語っておられました。

私たちは川島さんが常に言っておられた「繰り返すまじ戦没船の悲劇」の思いを、後世に伝えていくことが、会長として長年努力して下さった川島さんのご苦勞に報いる唯一の道だと思っています。

(前事務局長篠原国雄記)

海の平和と安全に尽力

川島 裕さんを敬慕

理事 豊田 健造

私たちの偉大なキャプテンであり、敬慕すべき師でもある川島さんが、海の平和と安全を護る使徒としての生涯を終え、天に召されました。

戦後50年の節目の年に当たり、「繰返すまじ戦没船の悲劇」を訴え、海の恒久平和を願う歩みを進めていた戦没船を記録する会は、1995年4月、第2回定期総会に於いて中島 洋副会長、中原 厚常任理事等の有力メンバーの上に、川島 裕新会長を推戴し体制が確立されました。

川島さんは早速、各関係先との協力要請に奔走されると共に事務局会議の定着化と役割分担を設定、組織の拡大強化をはかられました。

私達は、アジア・太平洋の広大な海域で船と運命を共にした6万余の戦没船員の鎮魂を不戦の誓いとして、2千5百余隻の戦没船の写真・記録の収集とその展示に駆け回りました。

順次集まった記録や写真は、展示用パネルに仕立て、北は北海道(小樽・函館)から南は沖縄(沖縄県民センター)、九州(門司・長崎口之津・鹿児島)までの各地で「戦火の海に消えた船と人展」を開催し、還ってこなかった船と船員たちに背負わされた過酷な任務と悲惨な最後を想起させ、ゆるぎない平和の確立を訴え続けました。

川島さんは戦没船を記録する会々長としての任務のほかにも、小林三郎本会副会長の主催する「海の平和問題懇談会」会員として、毎年3月1日のピキニデーには、第5福竜丸の母港焼津で举行される平和集会や故久保山愛吉氏の墓参行進に参加し、5月中旬には観音崎に於ける戦没船員追悼式に必ず出席されました。どちらも季節の変わり目で、天候が悪く、当日かその前後の日は風雨の日が多かった。

毎週木曜日毎の事務局会議には、他の用務の日程を変更してでも出席されました。

川島会長の業績として忘れられないものの一つは『戦没した船と海員の資料館の設立』です。

1999年2月、全日本海員組合本部に於いて川島会長と海員組合中西組合長が会談し、組合は神戸の関西地方支部会館2階ホールのスペースを提供し、戦没船を記録する会は、その作成した戦没船の写真

献 辞

戦没船を記録する会会長 川島 裕

つつしんで、6万余の海霊に捧げます。

あなたがたは、過ぐる大戦において、輸送船に乗り組み、寒風肌を刺す北海から炎熱鉄をも溶かす赤道直下の南洋までの広大な海洋を舞台として、兵員・武器・弾薬その他の軍需民需物資の決死の輸送に、その身を挺して活躍されましたが、苛烈な武器なき戦いを強いられ、その尊い生命を蒼海深く沈め、ふたたび還ることはありませんでした。

そのこうべには冠もなく、その胸を飾る勲章もありません。

けれども、あなたがたのいさおしは、海の平和を守る礎として、凜として万世に光り輝くでしょう。

墓標なき海深く眠る御霊よ、私たちはあなたがたの魂魄を鎮めようと、全日本海員組合の絶大な協力を得て、ここにあなたがたが生命をかけて守ろうとした船の在りし日の麗姿を展示し、海の恒久平和を願うよすがといたします。

御霊よ、どうか、わたしたちの心からなる祈りに耳を傾けてください。

「安らかに眠れわが友よ、波静かなれ永久に」

2000年8月15日

(アルフォト)と関係資料を展示し、共に協力して2000年8月15日を期して『戦没した船と海員の資料館』を設立することが大筋で合意され、1999年11月海員組合第60回全国大会で「資料館設立とこれに伴う3千万円の予算措置」が承認され、このことに対し、全国大会に出席した川島会長は、心からなる感謝の言葉を述べました。

2000年8月15日、全日本海員組合関西地方支部に於いて同館の開館式が、平和へのアピール『海の墓標』を掲げて盛大に举行され、冒頭、川島会長は別掲の「献辞」を捧げました。

この言葉を、そっくり川島さんの追悼の言葉としたいと思います。僭越ながらどうかお許し下さい。

私たちが海の平和と安全を祈るとき、川島さんは、その温容をこちらに向け、祈りにあわせて下さるでしょう。

「むつ」の教訓無視

過去に学ばぬ面々

2012年平和のための埼玉の戦争展は、2012年7月26～30日の5日間、さいたま市JR浦和駅西口前コルソで開催され、9,000人の参観があった。

今回は、東日本大震災—福島第一原発事故から2年目、「いのち つながり みらい」をメインスローガンに次のコーナーが設けられ、原発・放射能問題が大きく取り上げられた。

- 戦争への道、そのときくらしは・・・
- 戦時下の教育と子どもたち
- 再び戦争と暗黒の時代を許さない
- 日本と朝鮮半島—その過去・現在・未来
- 中国・東南アジアへの侵略
- ヒロシマ、ナガサキ、ビキニそしてフクシマ
- 原発問題を考える
- これ以上の放射能被害を起こさせない
再生可能な自然エネルギーへの転換を
- くらしの現場から安保を考える
- 「世界の中の日米同盟」はいま・・・
- 核兵器も、軍事同盟もない世界へ
- 憲法を暮らしに生かし、外交に活かそう

本会の展示

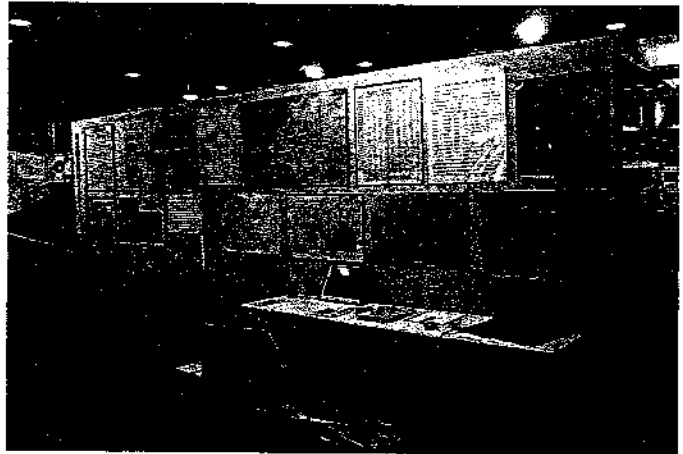
本会の展示は、毎回「戦没船・戦没船員関係」を主体としているが、その時々話題と船員の関係に触れたものもパネル化して展示しており、今回は原発事故に関連して原子力船「むつ」にも焦点を当てた。

<戦没船・戦没船員関係>

- 1、海の平和を願って
- 2、太平洋戦争と船舶関係年表
- 3、太平洋戦争の戦況と漁船の哨戒区域
- 4、都道府県別・所属別戦没船員数表
- 5、太平洋戦争中の日本船舶及び艦船沈没位置図
- 6、年月別戦没船・戦没船員数の推移グラフ
- 7、血の一滴より油の一滴—ヒ86 船団全滅
- 8、大久保画伯絵—3点

<原子力船「むつ」関係>

- 1、放射能禍は福島を最後に
- 2、原子力船「むつ」関係年表
- 3、漂流する原子力船「むつ」
- 4、原子力船「むつ」の出力試験出港に反対する漁船群



- 5、放射線漏れ事故を伝える新聞報道の写
- 6、漂流する「むつ」から下船を決行する乗組員
- 7、下船を決行して家族と再会する乗組員
- 8、「むつ」事故に関する要請書
- 9、「むつ」事故関係周辺地図

参観者の反応・意見

福島原発事故から1年余、社会的にも事故関係の関心は高く、参観者の話題の多くが原発事故関係であった。

- 日本の海運界でも40年程前の一時期、原子力船構想に沸いたことがあったが、その実験の段階で放射線漏れ事故が発生し、国会でも問題となるなど大騒ぎとなった。結局、安全性と経済性から原子力船は頓挫したが、その教訓が生かされず、福島

(3頁へ続く)

編集後記

川島名誉会長が昨年11月急逝されました。故人は戦没船を記録する会発足後間もなくより、会長として本会の精神的支柱であり、対外的には本会の看板として大変な貢献をいただきました。心より御礼申し上げますと共に御冥福をお祈りいたします。

2人の方が故川島さんの追悼文といひましようか思いを書いてくれました。他の方々にもそれぞれの思いがあることでしょう。特にご希望の方は一文をお寄せいただければ掲載します。

今は入会金・会費等もなくなっており、規約上も会員・賛助会員との明確な区分はなくなっておりますが、関係者の状況把握もしたいと思っております。期日は問いませんが、同封ハガキで近況・ご意見等をお知らせいただければ幸いです。

会報の発行が遅れ申し訳ありませんが、総会へのご出席、討議等よろしくお願ひします。

近年、健康を損ねられる方が増えております。ご自愛ください。

(栗原)